

分科会「グローバルCOEプログラム」

- 1 プログラム名 グローバルCOEプログラム
- 2 分科会開催日程 1月13日(火) 13:15~15:00
- 3 分科会開催場所 会議センター5F 501会議室
- 4 分科会の概要 平成19年度採択拠点から、教育研究拠点の形成計画の概要や実施状況等について報告を行うとともに、事例報告拠点関係者と審査を行った委員会の委員によるグループディスカッションにおいて、審査の経緯、取組を実施する中での留意点、大学への期待等についての報告や質疑応答を行います。
- 5 分科会の内容
12:45~13:15 開場
13:15~15:00 分科会
挨拶
事例報告A 大阪大学(生命科学)
事例報告B 京都大学(化学、材料科学)
事例報告C 東京大学(情報、電気、電子)
事例報告D 早稲田大学(人文科学)
事例報告E 愛媛大学(学際、複合、新領域)
各部会報告・質疑応答
- 6 参加委員
吉田 光昭 分野別審査・評価部会(生命科学)専門委員
(東京大学大学院新領域創成科学研究科客員教授)
玉尾 皓平 分野別審査・評価部会(化学、材料科学)部会長
(理化学研究所フロンティア研究システム長)
田中 英彦 分野別審査・評価部会(情報、電気、電子)部会長
(情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科長)
戸張 規子 分野別審査・評価部会(人文科学)部会長
(慶應義塾大学名誉教授)
立本 成文 分野別審査・評価部会(学際、複合、新領域)部会長
(大学共同利用機関法人総合地球環境学研究所長)
- 7 事例報告
大阪大学
拠点名称: 高次生命機能システムのダイナミクス
拠点概要: 21世紀COEプログラムで掲げた、「基礎生命科学、医学、理学、工学を含む広い範囲の研究分野を融合し、従来の生命科学の枠組みを越えた分野横断的な教育研究環境を整備し、生命機能の理解を深化させた世界最高水準の教育研究拠点を打ち立てる」という目標を引継ぎ、より高いレベルに発展させるものであり、①イメージング技術開発による高次生命機能システムのダイナミクス観察、②統合的研究による生体情報ネットワークのダイナミクス解析とモデリング、③生体機能を調節・制御する細胞システムオペレーション技術の開発などの統合的異分野融合研究

課題について重点的に研究を深化させる。

人材育成では、新たな研究分野を創成し国際的な異分野融合研究環境を整備して、最先端の研究現場で大学院生の RA 雇用による経済支援、他研究室での研究修行、大学院生主導型の異分野融合研究、次世代のリーダー育成のための独立特任准教授ポストの設置、海外研究機関での研究経験の単位認定とダブルディグリー制度の導入検討、海外大学インターンシップ制度との連携などを実施する、世界に冠たる異分野融合研究の下で展開されるプログラム。

京都大学

拠点名称：物質科学の新基盤構築と次世代育成国際拠点

拠点概要：2つの21世紀COEプログラムの確固たる実績に基づき、伝統的な分野や組織・部局を越えた基礎化学から材料科学までを統合する新パラダイムの創出と国際的教育研究拠点の構築を目的とし、①物質変換・反応、②物質物性・特性、③物質高次機能、④物質関連化学の「統合分野」を設置し、重点共同研究プロジェクトなどの活用により、各分野を有機的に連携して、新たな物質科学のパラダイムを創出する。

人材育成では、「統合された物質科学」という視点にたち、各分野における高い専門性を強化し、京大独自の学風を活かし自ら考える力を身に付けさせることにより、伝統的学問分野を越える独創性を開花させ、国境を越えた競争にさらすことで国際的視野を持つ自立した次世代を育成するため、統合分野における専門教育を行うための部局横断教育システム(統合カリキュラム、部局間単位互換制度)の整備、分野間相互派遣による研究立脚育成(On-the-Research-Training)、若手研究者(特に助教)・院生のための競争的統合物質科学・萌芽研究プロジェクト等を実施する、世界の化学研究のリーダーによって展開されるプログラム。

東京大学

拠点名称：セキュアライフ・エレクトロニクス

拠点概要：「セキュアライフ・エレクトロニクス」という個別領域を越えて価値を創造する横断的分野を提唱し、異分野との協働も積極的に図りつつ、豊かな社会を実現するための技術・学術領域を創成することを目指し、発現すべき機能面で構成した4つの研究COREを設け、さらに、本拠点が卓越した成果を有する3つの共通基盤を設定して、機能発現研究と共通基盤研究を縦系と横系として織り上げるように、研究室間、グループ間、産学間、そして国際協働を活性化させ、情報発信基地として「セキュアライフ・エレクトロニクス Web マート」を新設する。

人材育成では、「基礎講義群」、「先進的講義群」、「実践的な実験・演習・輪講群」の3層構造から成る大学院教育カリキュラムのさらなる体系化と強化、博士課程大学院生向けRA制度の拡充、海外武者修行(“道場破り”)制度の拡充、海外インターンシップ制度の拡充、若手教員やポスドクの採用、COE内リサーチファンディング制度の設置、「海外Liaison研究室」の設置を含む海外研究機関との連携・交流など、「縦棒の太いT型教育」を実践するなど、安全、安心を目指すエレクトロニクスを分野を超えた優れた研究者チームによって展開されるプログラム。

早稲田大学

拠点名称：演劇・映像の国際的教育研究拠点

拠点概要：演劇研究と映像研究とを統合した、国際的演劇教育研究拠点を構築することを目的とし、研究分野を日本演劇研究、東洋演劇研究、西洋演劇研究、舞踏研究、映像研究、芸術文化環境研究に分割し、これら基礎研究を踏まえて、さらに各研究を横断するための比較演劇研究を積極的に推し進め、研究・調査活動に各国大使館を通じた支援を受け、個人研究では不可能な、複数分野にまたがる大規模共同研究を実現する。

人材育成面では、演劇に関する高度の知識を備えた研究者を世に送り出すことを目的とし、国際的な調査活動への参加、国際学会での発表の機会の提供をはじめ、あらゆる支援を行い、確実な学位論文執筆を促す。また、世界の博士課程学生を公募し、在学生と同等の研究環境を与え、学位取得を奨励するなど、これまでの演劇博物館を中心に行われてきた継続的な演劇研究に新しい視点に立った、映像研究を加えた特徴あるプログラム。

愛媛大学

拠点名称：化学物質の環境科学教育研究拠点

拠点概要：愛媛大学沿岸環境科学研究センター(CMES)の長年にわたる活動や21世紀COEプログラムで整備、育成してきた貴重な教育研究基盤、「若手研究者育成プログラム」、「生物環境試料バンク(es-BANK)」、「アジア環境研究者ネットワーク」、「海外学術交流研究機関ネットワーク」を一層充実させて活用し、化学汚染に関わる環境科学の教育研究拠点形成を目的とする。また、地球汚染の大きな発生源となっているアジア地域を教育研究の中心的フィールドとし、CMESのユニークな基盤を活用しながら各種の研究者育成プログラムと世界をリードする独創的な研究を推進する。これらの活動により、教育プログラムが高度な研究を生みその成果が優れた人材の育成に回帰する発展的な連鎖システム、人材育成と知のポジティブ・スパイラルを形成し、アジアと世界の環境学の発展に資することを目標とし、CMESがこれまで世界をリードしてきた化学汚染に関する諸研究を、若手研究者と関連分野研究者の連携によりさらに高度な学問体系として発展、深化させ、環境化学物質に関わるサイエンスの世界的拠点を確立することを目的とする。

人材育成面では、「学際性豊かで国際的に活躍できる若手研究者の養成」を目標とし、「環境理念を語り実質化できる人材」、「地域社会や国際社会に貢献できる人材」、「組織のリーダーになれる人材」を「学際化」、「国際化」をキーワードに育成することにより、優秀な若手が国内外から集い熟達した専門家として巣立つ先導的な教育拠点を形成するなど、地方大学において世界的にユニークな体制づくりと高い学術発信を行ってきた実績を有する特徴あるプログラム。